

第3回 ～家族を歌う～**河野裕子短歌賞** 入賞作品

〔河野裕子賞〕

河野裕子賞 家族の歌

みてゐてとわれがたのめばうなづきてだきつくやうに荷物まもれり

東京都世田谷区 足立 訓子

河野裕子賞 恋の歌・愛の歌

捨てようとするれば途端に調子よく火のつくライター君にそっくり

北九州市八幡東区 王生 令子

河野裕子賞 青春の歌

ほんとうの夢は誰にも言いません正しいだけの空の青にも

東京都 女子学院高等学校 佐々木 遥

〔選者賞〕

池田理代子選 (家族の歌)

憲法の解釈いかに見直せど息子はやらぬ戦の場には

長野市 三ツ井 リカ子

俵万智選 (恋の歌・愛の歌)

「いつ逢える？」スマホに指を遊ばせて君は言うんだ目もあわせずに

長崎市 岩丸 幸子

永田和宏選 (家族の歌)

つい今朝も九十二歳の母さんに十代みたいに口答えして

福島県須賀川市 遠坂 洋子

東直子選 (青春の歌)

自転車を立ちこぎしながら丘のぼるのぼれば海が私をつつむ

京都女子中学校 友次 絢音

第3回 ～家族を歌う～  
**河野裕子短歌賞**

《家族の歌》入賞作品

河野裕子賞 家族の歌

みてゐてとわれがたのめばうなづきてだきつくやうに荷物まもれり

東京都世田谷区 足立 訓子

産経新聞社賞

「ふみちゃんはどこいったの」と母が訊くわたしは私をどこに探さむ

千葉県我孫子市 柴田 文子

京都女子大学賞

古着捨て家具捨て使わぬ食器捨て夫とわれとの距離近くなる

大阪府太子町 北井 美月

選者賞（池田理代子選）

憲法の解釈いかに見直せど息子はやらぬ戦の場には

長野市 三ツ井 リカ子

選者賞（永田和宏選）

つい今朝も九十二歳の母さんに十代みたいに口答えして

福島県須賀川市 遠坂 洋子

京都府知事賞

木漏りのかげがそのままゆれてゐる妻のコートを壁に掛けておく

宮城県石巻市 大和 昭彦

京都市長賞

残り湯に洗濯機まはす明日もまた今日のつづきの家族にゐたい

岐阜県池田町 太田 宣子

湖南市長賞

ひとりでも風邪をひいたらその晩はみんなが野菜のくたくたスープ

福井県南越前町 丸岡 里美

京都女子学園長賞

少しづつ食器の位置も変はりきて嫁ぎ来し子の三年を思ふ

兵庫県小野市 藤井 みどり

角川『短歌』賞

沙汰なき子へ電話をすればメッセージどうぞと留守電のテープの応ふ

東京都府中市 広田 滢子

NHK出版賞

娘こから息子こへ息子こから我家へ飼い主の変わりしこの猫齡二十四

宮城県涌谷町 森 マサ子

短歌研究社賞

抱くわれも抱かるる吾娘も取り返しつかぬ若さであやふげな顔

青森県五所川原市 千葉 育子

青磁社賞

目覚めれば互いの予定を確かめて老いし二人の今日がはじまる

福井県鯖江市 清水 宮子

第3回 ～家族を歌う～  
**河野裕子短歌賞**

《恋の歌・愛の歌》  
入賞作品

河野裕子賞 恋の歌・愛の歌

捨てようとすれば途端に調子よく火のつくライター君にそっくり

北九州市八幡東区 王生 令子

産経新聞社賞

湯の中に石けんすべり落ちるよう お姉ちゃんの恋はいつもそんなだ

兵庫県丹波市 中下 重美

京都女子大学賞

十八で身籠りし妻の腹なでき字芋<sup>あぢいもくぼ</sup>窪は吾子の本籍

東京都練馬区 新美 喜代男

選者賞（俵万智選）

「いつ逢える？」スマホに指を遊ばせて君は言うんだ目もあわせずに

長崎市 岩丸 幸子

京都府知事賞

みづからを刺す棘もありこの人と逢ふ日のわれは野の夏薊

徳島市 森本 順子

京都市長賞

かたばみの小さな花よきみと摘む 夕日かなしき風の砂山

神奈川県横須賀市 望月 良一

湖南市長賞

三つ目の駅から乗って来る君を今日の「おはよう」用意して待つ

大阪府摂津市 頭本 信代

京都女子学園長賞

あと五分と恋人描き出征す美校学徒の遺作に見入る

(無言館)

大阪府泉南市 国本 礼子

角川『短歌』賞

ひゆるひゆると冷製パスタをまくごとくわがものにしたい君のいる夏

山形県酒田市 村上 秀夫

NHK出版賞

紫蘇の葉で私を包みこむように妻の息から最期の言葉

北海道函館市 武田 悟

短歌研究社賞

大好きな父さんだけど今は別甲子園かけた母校対決

山梨市 田村 由利子

青磁社賞

終わりなき恋と思えば君看取る日にも束の間安堵はありぬ

大阪府富田林市 島村 千恵

第3回 ～家族を歌う～  
**河野裕子短歌賞**

《青春の歌》  
入賞作品

河野裕子賞 青春の歌

ほんとうの夢は誰にも言いません正しいだけの空の青にも

東京都 女子学院高等学校 佐々木 遥

産経新聞社賞

嘘つきと君に言われたあの日から君を忘れる嘘に埋もれる

東京都 早稲田大学高等学院 鍋倉 義輝

京都女子大学賞

大空に丸めてなげた答案が三十点の重さで落下

兵庫県小野市立小野中学校 和田 海希

選者賞（東直子選）

自転車立ちこぎしながら丘のぼるのぼれば海が私をつつむ

京都女子中学校 友次 絢音

京都府知事賞

じつとりと濡れる大気に木々は藻に家は小石にわれ魚うおと化す

兵庫県 甲南女子高等学校 秋田 叡美

京都市長賞

私ならやれると走り出したけど自分の影まで踏みつぶしていた

東京都 学習院女子中等科 植村 耀子

湖南市長賞

僕と君たとえるならば夏の日の頑丈そううで透명한氷

滋賀県竜王町立竜王中学校 池田 力

京都府教育長賞

先輩とすれちがう時新入生のわたしは廊下の壁に溶けこむ

青森県三沢市立堀口中学校 榎海帆

京都市教育長賞

地に消えた線香花火につぶやいた君はいくらか頑張り過ぎたね

東京都 学習院女子中等科 嶋村英里

湖南市教育長賞

にわか雨かばんをかざして駆け出すとペダル踏み込む姿が見えた

茨城県立竹園高等学校 加藤龍矢

京都女子学園長賞

目を細め見つめる先は光だけ空を見る君君を見るわたし

山口県光市立光井中学校 石田美楠

角川『短歌』賞

石の上 鬪志のように燃えている静かな炎線香花火

東京都 学習院女子中等科 安田彩夏

NHK出版賞

これからの長い夏の楽しみを例えるならば螺旋階段

大阪信愛女学院中学校 岩本悠里

短歌研究社賞

腕相撲挑み続けて十六年未だ倒せぬ父の右腕

京都府立山城高等学校 廣瀬龍輝

青磁社賞

七月に植えた朝顔やつと咲く 青は父顔赤は母顔

大阪信愛女学院中学校 伊藤花奈